

[平成20年 2月 定例会]

■新富士駅北口を拠点としたコンベンションの振興について

■健康づくり、観光振興のためのウォーキング促進について

◆2番（小池智明 議員） 私は、さきに通告してあります2項目について質問いたします。

最初の大きな項目につきましては、新富士駅北口を拠点としたコンベンション振興への取り組みについての質問でございます。

本市の今後の観光交流への取り組み方針を示した富士市観光交流まちづくり計画では、今後の観光交流の柱としてコンベンション振興を位置づけております。コンベンションは、各種企業や団体の会議、学会、見本市、スポーツ大会などのことであり、その開催に伴う宿泊、交通、飲食、アフターコンベンションと言われる大会後の周辺観光などによる直接的な消費効果に加え、コンベンションを通じたその地域からの情報発信効果など、すそ野が広く、さまざまな産業への波及効果が高いと言われております。

データが少し古いのですが、例えば、平成16年7月に静岡市のグランシップで開催された第57回全国公立高等学校事務職員研究大会、つまり高校の事務職員の方々の全国研修会ですが、こちらでは4日間で2150名の宿泊参加があり、1人当たりの平均消費額が4万5000円、全体的な経済効果としては3億100万円、また、スポーツ関連では、同じ16年10月に静岡市中央体育館を会場に開催された第38回全日本社会人卓球選手権大会では3日間で930名の宿泊参加があり、1人当たりの平均消費額が先ほどの研修会と同様約4万5000円、全体的な経済効果は1億2000万円強あったそうです。

これらは全国的な大会を静岡市に誘致して開催したものですが、逆に、プラモデルなどの地場産業の育成という観点から静岡市がバックアップして開催している産業見本市「静岡ホビーショー」は、実質2日間で毎年全国各地から約8万人が来場し、ホビーのまち静岡のブランド定着に大変役立っていると評価されています。

一方、本市におきましては、この4月から、これからの富士地域の観光交流を牽引し、その取り組みの柱の1つに、ただいま事例を挙げましたコンベンションを明確に位置づけた富士山観光交流ビューローが設立、稼働するとともに、見本市等のコンベンションの受け皿となる富士市産業交流展示場ふじさんめっせがオープンいたします。これをきっかけに、本市あるいは富士地域へのコンベンション誘致、開催に積極的に取り組み、効果を上げていくことが期待されるところでございます。

一方、新幹線新富士駅は、今月、開設20周年を迎えます。しかし、駅の北口一帯は、北口としてだけでなく、広く今後の富士地域の玄関口としての役割が期待されている中で、いまだ基盤整備、さらには都市機能の集積に向けた方向性が見出せていないのが実情です。こうした動きの中で、以下の3点について質問いたします。

1つとして、新富士駅北口一帯、いわゆるB地区の目指す姿と整備の進捗状況及び今後解決しなければならないと考える課題は何でしょうか。

2つ目に、4月にオープンするふじさんめっせは、一昨日の石橋議員の質問の中でも市長の答弁にありましたが、もともと地場産業振興のために地元産業界からの要望がきっかけとなり建設が決定した施設と理解していますが、現段階では地元企業等からの予約が少ないように聞いております。本来の大きな目的の1つである地元企業等の営業力、技術力をアップするために、ふじさんめっせを有効活用したコンベンションをどう展開していくつもりでしょうか。

3つ目として、ふじさんめっせがうまく稼働するには、宿泊や宴会ができるホテル機能が重要であると思います。都市の玄関である新富士駅北口に位置し、市外からのお客さんを迎え入れ、コンベンションを支える上でも重要になるこのような都市機能等を有するシティホテルの立地や宿泊滞在を支える既存ホテル等の宿泊機能の充実をどう誘導していると考えているのでしょうか。

大きな項目の2つ目でございますが、こちらは、ウォーキング促進への取り組みについてでございます。

平成20年度から国民健康保険で特定健康診査・特定保健指導が始まるなど、生活習慣病対策を初めとする健康づくりは、医療費削減の面からも重要な課題となっています。そうした中で、健康づくりの基本として、以前からウォーキングの有効性がさまざまな点から指摘されております。本市では、教育委員会が中心となり、各公民館を拠点としながら地域の史跡などをウォーキングで回る歩く健康づくり一万歩コースを設定しています。私も昨年末から、スポーツ振興課から地図等をいただき、全部で18コースあるうち8コースを歩いてみました。どのコースもウォーキングをする人が多く、改めて健康づくりの基本としてだれもができる歩くことの重要性を感じたところです。

また、ウォーキングは健康づくりだけでなく、地域の皆さんがそれぞれの地域を歩くことによる近所の方々との交流やウォーキングの際の地域の皆さんの目配りによる防犯効果など、市長が20年度の施政方針や一昨日からの答弁で述べているさまざまな地域力の向上につながることを期待されると思います。

一方、旧東海道などでは、リュックを背負った東海道ウォーカーの方々とはすれ違うことも多く、観光交流の面でも、自分の足で歩いて回るウォーキングが1つの大きな流れとなっていることを実感いたします。例えば、JRが主催し、鉄道駅を基点に季節の見どころを歩いて回るJRウォーキングはとても人気が高く、どのコースも毎回1000人以上の方が参加し、にぎわっているとのこと。こうした中で、以下の点について質問いたします。

2つに分けてございますが、最初は、毎日の健康づくりを中心に、地域の防犯、コミュニティづくりの観点から、身近な散歩、ウォーキングの促進策として、さらに2つに分けて、1つとして、一万歩コースは公民館を基点とする2時間ほどの1周コースであり、身近でない人も多いため、町内会、健康推進員、生涯学習推進員を初めとする住民の皆さん主導で、町内会を基本単位とし、いつでも気軽に歩けるコースの設定を支援、促進すべきではないでしょうか。

2つ目として、歩いた歩数、距離や、あるいは減った体重、ウエスト等によって、さまざまなポイントがたまる富士市版のウォーキングマイレージに取り組んではいかがでしょうか。

ウォーキングマイレージとは、横文字なものですから少し説明させていただきますが、

健康づくりのために地域の皆さんが歩いた分だけ、その地域の環境づくりの支援を行うという仕組みです。例えば富士市では、このまま何も対策をとらなかった場合の医療費とウォーキングを初めとするさまざまな健康対策に取り組んだ場合の医療費との差額、つまり、健康づくりに取り組んだ結果、支払う必要がなくなった医療費、この浮いた金額の何%かを、歩いた距離や歩数に応じて、まちづくりセンター単位で全 24 地域に還元いたします。そして、その用途は地域でのさらなる健康づくり、例えばスポーツ大会、ウォーキング大会など、あるいは地域の環境美化、例えば公共花壇の植栽など、地域独自のまちづくりに使っていただくというものです。つまり、歩いて健康になって、さらにまちづくりに貢献する仕組みです。いかがでしょうか。

大きな2つ目は、観光交流ルートとしての開発、活用が期待されるウォーキングルート開発にどのように取り組む考えでしょうか。

以上を1回目の質問とさせていただきます。

○議長（渡辺敏昭 議員） 市長。

〔市長 鈴木 尚君 登壇〕

◎市長（鈴木尚 君） 小池議員のご質問にお答えいたします。

初めに、2項目めのウォーキング促進への取り組みについてのうち、町内会を基本単位とし、気軽に歩けるコースの設定についてのご質問は教育長から後ほどお答えいたしますので、ご了承願います。

まず、新富士駅北口を拠点としたコンベンション振興への取り組みについてのうち、1点目の新富士駅周辺B地区の整備と進捗状況及び今後の課題についてであります。拠点都市地域新富士駅周辺B地区は、新幹線新富士駅を中心とした岳南広域の玄関口にふさわしい交通拠点機能の整備と高次都市機能の集積を図る地区への整備を目指し、現在、整備手法の検討を進めております。

B地区の整備におきましては、その先導的な役割として、ことし4月、富士市産業交流展示場ふじさんめっせがオープンとなりますが、あわせて、新富士駅からふじさんめっせまでの歩道のバリアフリー化も一部完成する予定となっております。また、ふじさんめっせの円滑な利用を促進するため、北側の道路整備を地元関係者の皆さんと相談しながら進めるとともに、東側道路につきましても、新年度、用地取得の準備を行ってまいります。今後は、駅前広場を中心とした地区の整備につきましても、地区の皆様のご理解とご協力を得ながら検討を進め、新幹線駅前にふさわしい拠点地区の創出に向けた取り組みを行ってまいります。

次に2点目の、地元企業等の営業力、技術力をアップするために、ふじさんめっせを有効活用したコンベンションをどう展開するかについてであります。まず、当施設の大展示場の20年度の仮予約状況につきまして報告いたします。

2月26日現在ではありますが、申請者の所在地別では、市内14件、県内11件、県外7件、合計32件となっており、大展示場の稼働日数にいたしますと、121日、33%の稼働率となっております。申請者の利用目的といたしましては、電設機材、住宅に関する設備、建材などの展示会、家電の展示会、輸入車・中古車フェア、就職・転職フェア等であり、

また、市に関連する利用といたしましては、富士市環境フェア、富士市産業まつり商工フェア、富士市国際交流フェアなどのイベント開催があります。

ふじさんめっせの開館に当たり、まず、市内外の皆様に知っていただくために、4月19日と20日にオープニングイベントとして富士のふもとの大博覧会を開催し、この施設を、工業展示エリア、富士ブランドエリア、屋内・屋外ステージなどを設け、さまざまな催し物を開催いたしますので、ぜひ皆さん、お誘い合わせてお出かけいただきたいと考えております。

地元企業等との関係についてであります。指定管理者でありますFメッセ共同事業体より、ふじさんめっせを地域の産業、市民交流促進の発信拠点、コミュニケーション空間として機能させていくとの提案もあり、具体的な方法として、富士市産業振興関連イベントやセミナーの開催を行うとしております。産業振興関連イベントやセミナーの内容や実施方法といたしましては、伝統の製紙関連の展示会、自動車関連産業の展示会、起業支援や異業種交流を促進するイベントなどの提案であり、本市の産業振興を進める上で大いに活用できる事業と考えておりますので、市といたしましても協働して事業展開を推進してまいります。

また、平成19年度に富士商工会議所、鷹岡商工会、市内商工団体の代表者及び市で構成する富士市産業交流展示場利用促進会議を立ち上げ、ふじさんめっせの利用促進を図るため、施設の周知啓発や地場産業の振興のための方策につきまして検討を進めてまいりました。これからも、利用促進会議の皆様とともに地元産業界との情報交換を一層進め、地元企業や市民の方々がふじさんめっせを有効活用したさまざまなコンベンション、各種展示会、各種セミナーの開催に利用していただけるよう検討してまいります。

次に、3点目の都市の玄関に位置し、宿泊機能の充実をどう誘導していくのかについてであります。ふじさんめっせや富士山観光交流ビューローの稼働により、今後、大規模なコンベンションが盛んになってまいりますと、多くの施設利用者や来場者がふえて、にぎわいが創出され、レセプションの開催や宿泊のため、ホテルなどに対する需要の増加が見込まれるところであり、市内の既存のホテルや旅館の収容能力を上回る需要が発生することが想定されます。このため、富士山観光交流ビューローに参加するホテル、旅館の皆様との間で、収容能力の向上や機能強化に向けた対策を協議してまいりたいと思います。

なお、ご提言のありましたシティーホテルの誘導についてであります。現在、新富士駅北地区は工業地域に指定されており、ホテルなどの建設は不可能な地域であります。先ほどお答えしましたように、地区の皆様のご理解とご協力をいただきながら、駅前広場を中心とした地区の整備に取り組む中で、新たな土地利用の形態が考えられると思っております。現在は、これらの施設の稼働に伴う環境変化と経済波及効果を新たなビジネスチャンスととらえ、商業活動が大いに活発になり、産業界が活性化するのを待つところでありますので、当地域への誘導などにつきましては今後の研究課題とさせていただきます。

次に、ウォーキング促進への取り組みについてのうち、歩いた歩数、距離や減った体重、ウエストによって、さまざまなポイントがたまる富士市版ウォーキングマイレージに取り組んではどうかについてであります。ウォーキングには、心の健康づくりを初め、ウォーキングによりその地域のよさがわかり、歩く人がふえ、まちがにぎやかになるなどの観光への効果や、ウォーキングを取り入れた家族ぐるみの旅行などは五感教育にもなり、子

どもたちの成長によい影響を与えるといった教育への効果もあると言われております。さらに、ウォーキングで内臓脂肪を減少することにより生活習慣病を予防することができるため、医療費の削減につながる効果的な運動であると考えられています。このように、ウォーキングはさまざまな効果、効用があります。

健康ふじ21計画の中間評価では、日ごろから健康の維持、増進のために意識的に運動をしている、そういった若者は減少しており、壮年期は半数以上が運動していないという状況でありました。国で提唱している生活習慣病予防のためのスローガンは、「1に運動 2に食事 しっかり禁煙 最後にクスリ」で、運動は健康づくりにとって最も重要であると位置づけております。そのため、本市においては生活習慣改善講座や糖尿病予防教室、また、地区においては健康推進員と協働で実施している運動講座などの中でウォーキング等の運動を普及啓発しております。今後は、厚生労働省で策定した健康づくりのための運動指針「エクササイズガイド2006」に示されている生活習慣病予防のためのウォーキング等の運動を、運動講座や食生活講座などにおいて運動実践指導者により推進していく予定であります。

さて、ウォーキングマイレージについてであります。これは企業などの従業員に歩数計を貸し出し、歩数を報告、歩数に応じたポイントを算出して、歩道整備や検診車の寄贈、発展途上国へのワクチン支援など社会に貢献する仕組みであると認識しております。これは、ウォーキングを推進していくための大きな動機づけとなる有効な手段の1つと考えられますので、今後研究してまいります。

次に、観光ルートとしてのウォーキングルート開発への取り組みについてであります。ウォーキングについては、健康づくりへの関心も高まる中、興味のある地域を自分の足で歩いて、自分の目で楽しむという1つの観光スタイルとして定着してきております。本市では、従来から湧水やかぐや姫をテーマにした泉の郷コース、花と歴史ロマンの岩本山・雁堤コースなどを観光的に紹介し、多くの方々に楽しんでいただいております。

こうした中、富士市内にあります50カ所のまちの駅では、富士市まちの駅ネットワークを組織しており、ウォーキングやクイズラリーなどさまざまな自主事業を展開して、まちなぎわいづくりと観光交流客へのおもてなしを実践していただいております。中でも、富士市まちの駅ネットワークでは、曾我兄弟コースや双体道祖神コース、山本勘助コースなど富士市ならではのウォーキングコースを開発し、好評を博していると伺っております。また、最近では歴史への関心も高まっており、旧東海道を歩く人たちも多くなってきておりますことから、富士市の東海道とウォーキングコースを紹介したマップを作成し、こうしたニーズにこたえております。

今後、こうした観光ウォーキングを一層盛んにしていくためには、ルートや見どころなどを解説したマップの整備を行うとともに、トイレや休憩所などの提供が必要になりますことから、新たなルート開発に当たっては、富士市まちの駅ネットワークなど関係する皆様と協働して進めてまいりたいと思っております。

以上であります。

○議長（渡辺敏昭 議員） 教育長。

〔教育長 平岡彦三君 登壇〕

◎教育長（平岡彦三 君） 続きまして、身近な散歩、ウオーキングの促進策として、町内会を基本単位とし、いつでも気軽に歩けるコースの設定を支援、促進すべきではないかについてお答えします。

富士市では、だれでも身近に行うことができる運動として散歩やウオーキングを楽しむ方がふえてきたことから、昭和 61 年の伝法ふるさとコースを手始めに、市内に 17 の歩く健康づくり一万歩コースを整備してまいりました。この一万歩コースは、公民館を拠点として、地区の皆さんと相談しながら地元の見どころや史跡を取り入れ、歩きながら富士市の文化を楽しむとともに、富士市を知っていただけるコースづくりをしてまいりました。ウオーキングとはいえ、スポーツとしての運動効果を得るため、設定されているコースはおおむね 1 周 7 キロメートルで、1 時間半から 2 時間程度で歩けるようになっていますが、歩く方の体調や都合に合わせて、自分で歩く順路を決めたり、コースの一部を利用するなど、上手に活用してくださる方もおられます。

今年度、スポーツに関して実施した世論調査の結果では、現在行っているスポーツや運動の問いに対し、ウオーキングが 41.9%とすべての年代において最も多く、また、今後行いたいスポーツや運動という問いに対しても、ウオーキングが 31.9%と一番多い回答となりました。このことから、ウオーキングに対する市民の皆さんの関心の高さがうかがえます。

町内会を単位とした設置も考えられますが、まずは、多くの市民の皆さんがウオーキングに取り組んでいただけるよう、地区の皆さんに協力いただき、一万歩コースがまだ設置されていない地区への整備に努めてまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（渡辺敏昭 議員） 2 番小池議員。

◆2 番（小池智明 議員） 市長、教育長、答弁ありがとうございました。それでは、順に 2 回目の質問をさせていただきたいと思います。

まず、最初の新富士駅北口拠点地区のお話ですけれども、こちらはコンベンションということ 키워ドに質問しましたが、もう 1 つ基本となることとしましては、これからの富士市の大きなまちづくりの骨格、そうした中での新富士駅あるいはあの周辺地区の位置づけというものを、やはりもう 1 度明らかにする必要があるんじゃないかという気持ちがありまして、質問させていただきました。

そういう中で、最初の目指す姿と進捗状況という中で、市長の答弁の中では、ふじさんめっせが稼働し始める、それに伴う歩道整備等が進んでいる、さらに、駅北口そのものをこれから交通拠点として整備していきたいというお話がありましたけれども、ちょっと私はそれでは目指す姿という点は、最初に申し上げました、あの周辺一帯の目指す姿とは異なるんじゃないのかなと。平成 15 年に策定されました B 地区の基本構想がございます。やはり、富士市の将来ビジョンとしてどのようなものを目指すのかというものをここで表明していただければと思いますけれども、その点についてはいかがでしょうか。都市整備部長、よろしくをお願いします。

○議長（渡辺敏昭 議員） 都市整備部長。

◎都市整備部長（鈴木利幸 君） B地区の整備につきましては、全体構想としては高次都市機能の集積ということで、前回目標としたものと変わりません。ただ、現在のところ、周辺の工場の利用方法等が大分当時と変わっておりますので、現在、ふじさんめっせ周辺をまず整備して、その利便性を図ろうということで今目標を立てている、そういう状況であります。

○議長（渡辺敏昭 議員） 2番小池議員。

◆2番（小池智明 議員） ありがとうございます。

そうしますと、やはりこれは長期のビジョンになると思いますけれども、あの周辺、大企業がございますが、そちらも含めた一体的な都市開発といいますか、この富士広域の玄関口としてのエリア整備を目指しているということで理解いたしました。そのためには、まず、今、都市整備部長からもお話がありました、さまざまな地権者の方がいらっしゃると思いますけれども、ご理解をいただく中で基盤整備をどう進めていくかということが重要だと思います。この点をぜひこれからも頑張ってくださいと思っています。

そういう中で、2番目のふじさんめっせの質問でございます。

もう4月にはすぐにオープンする、そういう中では、指定管理者の方で市外からのコンベンションはかなり順調に誘致が進んでいるということでした。今、市長の答弁の中でも、市内のいろんな催し物もだんだんに入ってきている。また、4月19日からはオープニングイベント等でさらにPRしていく。また、今、市長はこの場でも、ぜひ皆さん来てくれということでPRをされて、非常に積極的な取り組みも評価したいと思います。

さらに、昨年から利用促進会議を設置した中で、地元の企業の皆さんといろいろ協議をされているということですが、今後、この利用促進会議を核とした中で、さまざまな市内の地場産業の業種、もちろん製紙、紙加工等は中心になるかと思いますが、それ以外の皆様にも入っていただいた中で検討いただき、ぜひあそこを活用していただければと。

それと、大きな企業——ジヤトコ、東芝機械、さらには例えば旭化成などは、昨年12月に発表されました資料によれば、今後、全旭化成グループの研究機能拠点を富士工場に持ってこようと。将来的にはというより、平成21年8月には、あそこに300人規模の研究者が集まると。そこでは、分野が電子ですとか材料工学、そんなようなものに特化した研究機能だということですが、国際会議、国際フォーラム等も開けるような設備を持つてくるというお話が出ております。そういうものが来れば当然、分科会ですとか、あるいはふじさんめっせと連携した中で、そういうような国際フォーラムを開いていただくということも可能かと思いますが、ぜひ大企業とも一緒になって検討をいただければというお願いでございます。

それと、ふじさんめっせの活用につきましては、今言っているような中で地元企業にたくさん使ってもらいたいわけですが、一部お話を伺いますと、使うにはちょっと使

用料が高いよというようなご意見も伺います。こうした中では、例えば市内企業については、いろんな催しをするときには優遇するよ、あるいは補助金を出すよというようなことが地場産業の育成にもつながるかと思いますが、その辺については何か方策を持っていますでしょうか。

○議長（渡辺敏昭 議員） 商工農林部長。

◎商工農林部長（金指健司 君） ふじさんめっせの利用につきまして、市内企業の利用につきまして補助金等の考えということだと思いますが、基本的には、これまで中小企業につきましては、はばたき支援事業ということで、産業展示会とか見本市、こういうものに出展をした場合に経費の2分の1で30万円を限度に助成するという制度がございまして、これにつきましては、市外に出て出展をした場合という要綱になっておりましたけれども、これも5年間の時限の制度でございまして、この4月からふじさんめっせができますので、市外に出てというところを削りまして、ふじさんめっせでそのような形で自社製品をPRするために産業展示会等に出展をした場合も補助の対象にできるような形にしております。

今議員のご質問で、利用をした場合の補助ということでございますので、もう1つの利用の仕方としましては、主催者としてあそこを借りて実施する場合ということだと思いますが、基本的に、主催をしてやるというのはそれなりの規模の企業ではないかと想定もできますし、また、いわゆる業種的に、そういうものを主催するというのは、例えば製造業が直接主催する場合というよりも、イベント会社とかそういうところが主催するというようなこともあるかと思っておりますので、その辺については現時点では考えておりません。

以上です。

○議長（渡辺敏昭 議員） 2番小池議員。

◆2番（小池智明 議員） はばたき支援事業補助金の枠を拡大するというのが1つあるというお話でした。それはそれで企業にうまく使っていただけたらと思いますけれども、今部長の方で後段で言われました主催する場合、もちろん小さな個々の企業が主催する、あるいは、市内には最終製品をつくっているというところが余りないものですから、そういうケースは少ないのかもしれませんが、ただ、組合で主催しようだとか、業界で主催しよう、そんな場合は想定されると思います。

そういった場合には、きのう、前島議員の質問の中で、今度できる観光交流ビューローの方でコンベンションの開催補助金、これは多分、宿泊を伴うような場合には支援しますよということがほかの市町村では多いかと思っております。こういう市が直接ということでも、コンベンションビューロー、観光交流ビューローの方でもコンベンションを柱にしているわけですから、ぜひ、市内の企業あるいは業界が何かをやる場合には支援するというような仕組みがあってもいいかと思っておりますが、そのあたりは何か検討されていますでしょうか。

○議長（渡辺敏昭 議員） 商工農林部長。

◎商工農林部長（金指健司 君） 観光交流ビューローの方でコンベンションの関係で事業化をいろいろ考えていらっしゃるということを伺っております、そういう中で出席をされる方の一部補助のようなことも考えているということは伺っております。ふじさんめっせの利用につきましては、指定管理者がこの4月から実施するという今の時点で、先ほど申し込みの状況が初年度33%という説明もさせていただきましたけれども、当初、指定管理者が見込んでいるのは、初年度は54.2%の利用ではないかという中で、現在33%の稼働率を確保しているというような状況がございまして、まだ1年間回していない段階で、今議員のご提言のような制度が必要かどうかということも見きわめをしていかなければなりませんので、今後そういうようなことも視野に入れた中で検討させていただきたいというふうに思います。

○議長（渡辺敏昭 議員） 2番小池議員。

◆2番（小池智明 議員） わかりました。ぜひその辺を踏まえた中で1年間回していただければと思います。

続きまして、3つ目の宿泊機能の充実という点でございますが、先ほどの答弁では、今後、コンベンション誘致等に伴って宿泊客の増加が想定されるというお話でしたけれども、私は、想定されるというより、やはり観光交流という切り口から富士市にどんどん呼び込むような取り組みをもっともっと積極的にしていく必要があると思います。ただ、そういう中で宿泊機能は非常に重要だというご答弁がありましたので、そこは私も同感でございます。

ただ、先ほどのご答弁では、北口は工業系の用地だからできないよというようなニュアンスの話がありましたけれども、それはもちろん承知しております。ただ、最初に申し上げましたように、富士市のこれからのビジョンということで考えれば、あの周辺一帯は、やはり玄関として整備していくエリアなんだ、当然今は法規制がかかっているけれども、それを将来は色を変えていくんだ、そういう中でさまざまな都市機能を集積させるんだよということは、私はしっかりと方針づけなければいけないんじゃないかと考えております。

そういう中で、これは参考事例なんです、ホテルの立地ということで、奈良県では、平成18年から、生産企業とホテルの新設あるいは増設については補助金を出すよという条例をつくりました。これは富士市の企業立地促進奨励金、13億5000万円と、ぽんと出たパンフレットです。奈良県のやつは最大4億円の減税となる制度ですよ。つまり、奈良県では宿泊産業そのものが生産企業と同じだと。富士市と同じように、先にお金を出しても後から十分元は取れる、そういうふうを考えてやっているよと。お話を聞きますと、奈良県のホテルは、戦後、修学旅行の生徒のためにつくった木造の大広間型、トイレも一緒、そういう宿泊施設なものですから、非常に宿泊が減っていると。だから、新しいものに切りかえた場合には、いろんな意味での波及効果があるのではということをやっているということです。また、松戸市でも、まさにシティーホテル誘致条例ということで、固定資産税相当分の補助金を出したり、本体工事に当たっても5000万円ほどの奨励金を出している

いうことです。

一昨日からの議論で、先行投資という言葉が何度か出てまいりました。やはり、企業立地と同じように、宿泊というものもこれから重視していかなきゃいけない。まして、1人泊まるだけじゃなくていろんな効果があるということでしたら、後で十分回収できるというめどが立った中で、そのような制度なり条例を制定していくということも視野に入れなければいけないんじゃないかと考えております。その辺についてはいかがでしょうか。

○議長（渡辺敏昭 議員） 商工農林部長。

◎商工農林部長（金指健司 君） 宿泊の関係は、やはり観光振興を目指す中で、また、今回のふじさんめっせ、こういう施設をオープンする中で、いろんな方に富士市に来ていただいて、できれば長く滞在していただきたいと、そういうようなことから考えますと、当然そういう施設を考えていかなければならないというふうに思います。

ただ、先ほど市長からもお答えをさせていただきましたように、新富士駅の北口につきましては、今の時点で用途地域が工業地域になっております。そういう段階で、先ほど議員もおっしゃいましたけれども、将来的に目指す都市像といいますか、あの地区の目指す像がきちっと確定していない段階で、今言われたような、例えば制度をつくって誘致をしようとしても、ちょっと今の段階では無理ではないかなと。ただ、あそこの地区がどういう形で開発されていくという道筋がきちっとなった段階では、当然新たなビジネスチャンスということで、逆に言えば、市がそういうような誘致をしなくても民間の事業者が進出してくる、そういうことも考えられるのではないかなと思いますので、今の時点ではそのような状況だと思います。よろしくお願いします。

○議長（渡辺敏昭 議員） 2番小池議員。

◆2番（小池智明 議員） 私も基本的にはそう思っております。今の段階ですぐにというのは当然できることではありません。やはり、あそこの目指す都市像に向けての基盤整備にある程度めどが立った段階で、そのような制度なりは導入すべきだと思います。

ただ、基盤整備をどう進めるか、もっと言えば、関係する地権者の皆さんにご理解、ご協力をいただくにはどうするかといいましたら、やはり市としては、将来的にここはこれだけ重要視していますよ、考えていますよということをしつかりとお伝えすること。それと、20年たちましたけれども、当時とは大きく環境が変わってきていますよ。例えば、皆さん言われます、空港ができて、もっともっと富士市にも泊まる方を呼び込みますよ、あるいは、さっき言いましたように旭化成の研究所には300人も研究者が来て国際会議も開かれますよ、だったら、やっぱりここはこれだけポテンシャルがあるところですよというご説明を、地権者ですとか関係者の皆さんにしっかりとお伝えしていくということが、基盤整備を進めるための新たな原動力にもなると思います。

そういった点で、今回提案いたしましたホテルを誘致するための助成制度等の検討に富士市も入るよというような表明が、その説明というか、意気込みをあらわすことにもなると思います。そんなことで、ぜひこれから研究いただければと思います。

時間がなくなってまいりましたが、ウォーキングの方に参りたいと思います。

最初の質問に対しましては、教育長の方からお話をいただきました。ありがとうございました。ただ、これは役所の分けでいけばスポーツ振興課が教育委員会だからということで教育長からご答弁いただいたんだと思いますけれども、私はどちらかといいますと、最初の質問についてはスポーツというより日々の健康づくり。例えば、私は本当に完全なメタボだと思います。私のような人間が、ちょっとした時間に、きょうはちょっくらあの辺を歩いてくるかというようなことのできるような、そういう意味の身近な健康づくりのコースが自分自身も非常に欲しいなと思います。

いろんな方に話を伺いますと、昼間から歩けるのはお年寄りの方なんですけれども、まだ働いている方というのは夜歩くことが多いと思います。あるいは朝早く。そうすると、本当に安全でちゃんと照明がついているところ、そういうところをちゃんと歩きたいなと思うわけなんですけれども、そのためのマップだとか、あそこに行けば安全だぜというような、そういう身近な資料が欲しいな。そのために、町内会単位ぐらいでルートを——道を直すとかそういったことじゃなくて、とりあえず今の中でこんなルートだったらうちのところを歩けますよというのが全部あれば、それぞれが自分で組み合わせて、きょうの都合だとか体調によって、この辺を歩いてみるかということで、どんどん工夫をしていけると、そんなことで考えたわけです。

ということで、一万歩コースをどんどん拡大するというのはぜひお願いしたいと思います。ただ、それとは別に、今言ったような身近な散歩コース、ウォーキングコースを、とにかく図上ででも地域の人らが一緒になって設定していくというようなことをする必要があると思うんですが、その辺、教育長ではなくて福祉保健部長、いかがでしょうか。健康づくりという観点から。

○議長（渡辺敏昭 議員） 福祉保健部長。

◎福祉保健部長（井出哲夫 君） まず、ウォーキングにつきましては、先ほどの教育長の答弁の中にも、今年度、世論調査で実施した中で、運動、スポーツの中でウォーキング自身がトップ、断トツなんです。そして、どこでやっているかというところ、聞いたところ、道路もしくは近所の空き地と、まさに小池議員がご提案するとおりでございます。

しかし、今のところ、うちのところで、メタボ対策も含めて2年前から厚労省が進めておりますエクササイズガイド2006というのがありまして、その中にもウォーキングが入っているわけです。今はそれ自身を進めておりますので、コース設定等につきましても、今後の課題として研究してまいりたいと思います。

いずれにしても、私自身、毎日、朝大体5時半に起きて30分ぐらい歩いているわけなんですけれども、電灯がないところ、暗いところというのは実際にあります。その辺はまた町内会の皆さん、それから地区の健康推進員の方々なんかも含めながらいろいろ研究、検討していかなきゃならないとは思っておりますので、もう少し時間をいただきたいと思います。

以上です。

○議長（渡辺敏昭 議員） 2番小池議員。

◆2番（小池智明 議員） ありがとうございます。ぜひ検討を前向きにお願いしたいと思います。

それと、今の話にも関連するんですが、提案させていただきました富士市版のウォーキングマイレージにつきましても、答弁の中では今後研究していきたいと、歩くための動機づけということで一定の評価をいただいているというふうに感じております。市長の答弁の中で、今、ほかの県ですとか、市ですとか、あと企業の健保組合等で行っているのが、万歩計等のデータを送るとかいう話がありましたが、それは非常に高額な万歩計のシステムを用意したり、集計するための仕組みというのにすごくお金がかかるものだと思います。そうでなくて、私は、健康づくりにそんなに金をかけるんじゃないで、やっぱり地域でできる、あるいは一番簡便な方法でやっていったらどうかなと思っております。

そのためには、本年4月から公民館が地区まちづくりセンターに変わっていきますけれども、ぜひ、まちづくりセンターを拠点にそういう集計作業的なものできないかなと。基本的には自己申告、家族とか何かで確認し合う、あるいは友人同士で確認し合いながら、きょうはこれだけ歩いたね。お互いにチェックした数字をまちづくりセンターに届け出るなり、電話でもファクスでもいいです。言って、それで、まちづくりセンターで取りまとめる。それを健康対策課等で全体的に集計して、案分して分配するような、そんなことをまちづくりセンターが担えるのではないかなと。

また、逆に、まちづくりセンターがそんなことをやっていくと、市長がおっしゃっているきめ細かな地域の要望、それと、地域との協働をやっていく上で、コースの設定ですとか、あるいは、あそこのところはやっぱりおっかなくて危ないぜというような話もまちづくりセンターに来たりすると、非常に一歩の取り組みとしてよろしいんじゃないかと思えますけれども、そのあたりは、市民部長あるいは福祉保健部長、いかがでしょうか。

○議長（渡辺敏昭 議員） 市民部長。

◎市民部長（加藤一郎 君） 小池議員がおっしゃいますように、そういう方針が市で出たというならば、まちづくりセンターは1つの、例えば休憩場所にもなるでしょうし、トイレ休憩とか、ウォーキングの仲間づくりとか、そういう拠点にはなり得る施設というふうに解釈しております。

以上でございます。

○議長（渡辺敏昭 議員） 2番小池議員。

◆2番（小池智明 議員） ありがとうございます。これは私の提案に基づいた話ですので、ぜひおっしゃるように検討いただきまして、お願いしたいと思います。

最後の、観光交流ルートとしてのウォーキングルート開発でございますけれども、こちらは私が期待しておりました100点満点の答弁をいただきまして、ありがとうございます。ぜひ東海道のウォーキングルート開発、これは合併します富士川町には特にいろんな資源があると思います。そちらの方のバックアップ、それと、まちの駅の皆さんは今非常に頑

張っております。3カ所の事例を挙げられました常設コース、ほかのコースも設定しようとされています。本年11月にはまちの駅の全国大会も富士市で開催されます。そのバックアップも含めまして、ぜひまちの駅を絡めたウォーキングへの取り組みというものを市としても支援をお願いして、私の質問を終了させていただきます。ありがとうございました。